

VB SPREAD 6.0J

多彩な機能をもった表計算コンポーネント

関谷 寛幸
SEKITANI, Hiroyuki

問合先 グレープシティ株式会社
TEL 022-777-8211 URL <http://www.grapecity.com/>
FAX 022-777-8233 MAIL sales@grapecity.com

動作OS Windows 95 (SP1以上) /98/Me/NT4.0 (SP3以上) /2000/XP 対応開発環境 Visual Basic 5.0/6.0 (各SP3以上)
備考 動作OSのWindows Me/2000/XPはVisual Basic 6.0使用時
価格 70,000円 (税別、ダウンロード販売価格)、88,000円 (税別、パッケージ販売価格)

はじめに

「スプレッドシート」という単語をインターネットなどで検索すると、

「帳票処理アプリケーション。行と列からなるカラムにデータや計算式を記述してゆき、煩雑な帳票の計算式を自動化し……」

などと表示されます。しかし、スプレッドシートと言うと、今回紹介する“SPREAD”のシートのことだと思っている方もおられるのではないのでしょうか？

グレープシティ株式会社が発売した「SPREAD 6.0J」（以下SPREAD6）は、表計算コンポーネントです。しかし、拡張リストボックスやツールボックス、データベースのフロントエンドとしても、優れた機能を発揮します。

豊富なプロパティ設定をビジュアルな開発画面から提供する「SPREADデザイナー」は、開発時にシートの表現（フォント、入力規則など）やデータ型などを表計算アプリケーションのように設定できるツールです。これにより、

直感的かつ効率的なインターフェイスの設計が容易に行なえます。

また、本バージョンで新しく加わったマルチヘッダやセル連結、テキスト回転機能、ユーザー定義印刷機能などにより、表現力が格段に向上しました。他にも、拡張された100種以上の数学関数式や、組み込みソート、文字検索、XML形式のデータ出力など、多彩な機能でアプリケーションの開発を強力にサポートします。

SPREAD6は、OLE DBに対応したスプレッドシートとテーブルを作成するためのfpSpreadコントロールと、印刷の前にスプレッドシートのプレビュー表示ができるfpSpreadPreviewコントロールで構成されています。また、DAO版としてはvaSpreadコントロール、およびvaSpreadPreviewコントロールが用意されています。

それでは、SPREAD6の変更点や新しい機能を中心に見てゆきましょう。

主な新機能や改良点

SPREAD6では次のような新しい機能が追加されました。

- 連結セル（複数のセルをつなぎ合わせる）を作成する（図1）
- 同じ内容を保持する列や行を自動的にマージする
- 複数で構成する列ヘッダや行ヘッダを表示する
- セル（通貨型、日付型、文字型、数値型、パーセント型、ラベル型、時刻型）内のテキストを、90度/180度/270度の角度で表示する。また、テキストを垂直方向に表示し、右から左または左から右にワードラップさせることもできる
- セルとユーザー定義情報を関連付ける
- 列に対する識別文字列の割り当てを行なう（コードから列を参照可能）
- 値または文字列を指定して列と行を検索する（図2）

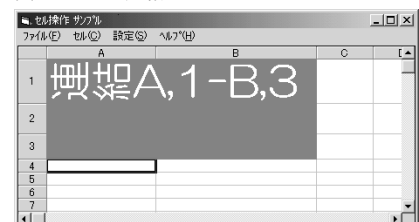
また、次のような機能の強化/改良が行なわれています。

- SPREADデザイナー（図3）のツールバーが拡張され、スプレッドシートや数式の設定がより簡単に行なえるようになった

本稿で使用した環境

O S | Windows 2000 Server (SP2)
開発環境 | Visual Basic 6.0 (SP5)
C P U | Pentium III 1.4GHz
メモリー | 512MB

図1：セルの連結



- セルのオーバーラップが入力時にも有効になったため、セルが入力モードのときにセル内に入力されたテキストを隣のセルに、はみ出して表示できる
- 数文字を入力してコンボボックスのリストから要素を検索できる
- 負の数を赤色で表示する設定ができる
- Unicode形式でのファイル保存ができる
- 新たに追加されたメソッド (表1) により、データのコピー/移動/入れ替えや、スプレッドシートの列/行範囲に対する書式設定が、より高速に処理できるようになった

図2：テキストの検索



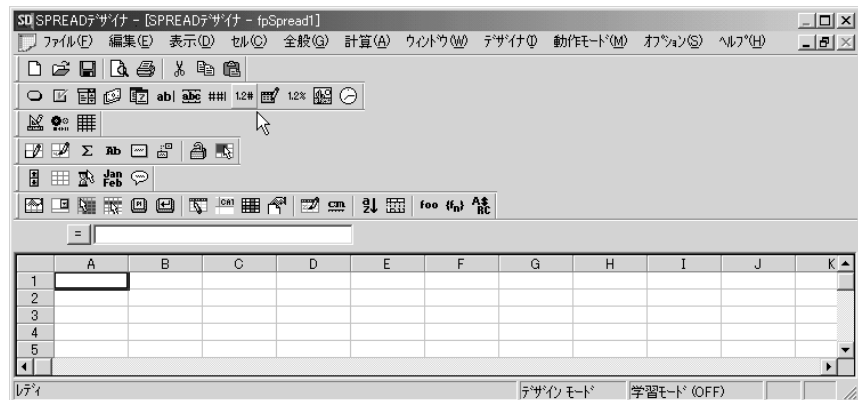
■ 以前のバージョンからの変更

既存のアプリケーションでSPREADの以前のバージョンを使っている場合は、SPREAD6で変更された部分用途によって変更する必要があります。ここではとくに、SPREAD6のfpSpreadコントロールで、既存のメソッドやプロパティに加えられた変更内容について触れておきましょう。

テキストファイルを読み込むための「LoadTextFileメソッド」には、テキストファイルの読み込み時にすべての既存データを消去し、書式設定だけを維持するためのフラグ (値=4) が追加されました。

また、特定のセル範囲をHTMLファイルにエクスポートする「ExportRangeToHTMLメソッド」および、データを含むすべてのセルをHTMLファイルにエクスポートする「ExportToHTMLメソッド」のLogFile引数の設定値は無視されます。したがって、ログファイルのパスやファイル名を指定しても、ログファイルは作成されないのに注意が

図3：SPREADデザイナー



必要です。

他に、既存の実数型と整数型の各セルが、新しく通貨型、数値型、パーセント型の各セルに置き換えられました。ですから、従来のCellTypeプロパティの設定値「2-実数型」「3-整数型」を、「12-通貨型」「13-数値型」「14-パーセント型」のいずれかに変更します。そして、表2のプロパティもそれぞれ置き換えられていますので、SPREAD6への移行時には更新することを推奨します。

■ SPREAD6のサンプルプログラムを作成する

それでは、SPREAD6の新しい機能をいくつか盛り込んだサンプルプログラムを作成してみましょう。

サンプルプログラムの仕様としては、データベースにADOで接続して複数のテーブルのSQLクエリーを指定し、スプレッドシートに表示させます。そして、組み込みソートを使用して各列のヘッダをクリックするたびに昇順/降順に並び替えて、インジケータもヘッダに表示させましょう。また、自動的にマージする機能を設定/解除できる